

第8回教育委員会会議

令和7年6月24日
午後3時30分
本庁舎第11共通会議室

案 件

議案第50号

大阪市教育DX人材育成方針の策定について

大阪市教育DX人材育成方針に至った経過

I 大阪市DX人材育成方針について

令和5年3月 大阪市DX戦略 策定

- ・サービス、都市・まち、行政の3つの視点からDXに取り組む方向性を示す。



令和5年4月 大阪市DX人材育成方針 策定

- ・大阪市DX戦略策定を受け、DX人材育成について基本的な考え方を示す。
- ・対象を職員全員（※）とし、ICT担当部署だけではなく全部署が職務のやり方を変える意識を持たなければならない。

※教育委員会事務局の職員は対象とされているが、市長と教育委員会の役割分担があることから、学校園の教職員は対象外とされている。



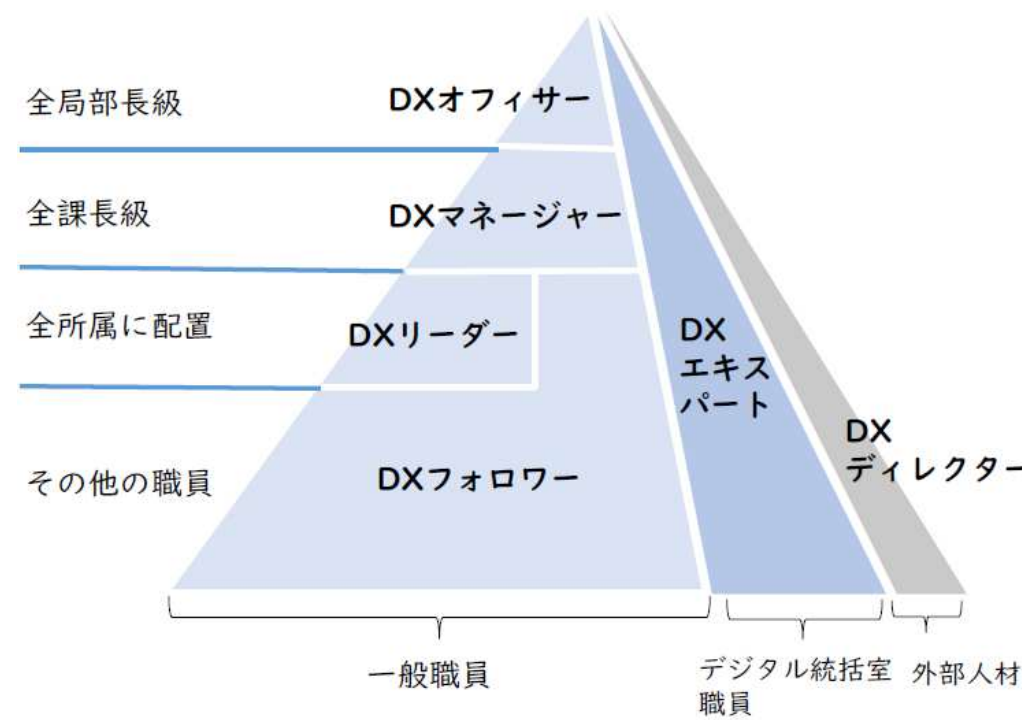
学校園の教職員を対象とする方針の策定が必要

学校園現場にデジタル技術を導入する際に学校園現場の視点に立った観点が必要になることから、学校園教育に携わる教育委員会事務局の職員も対象とする。

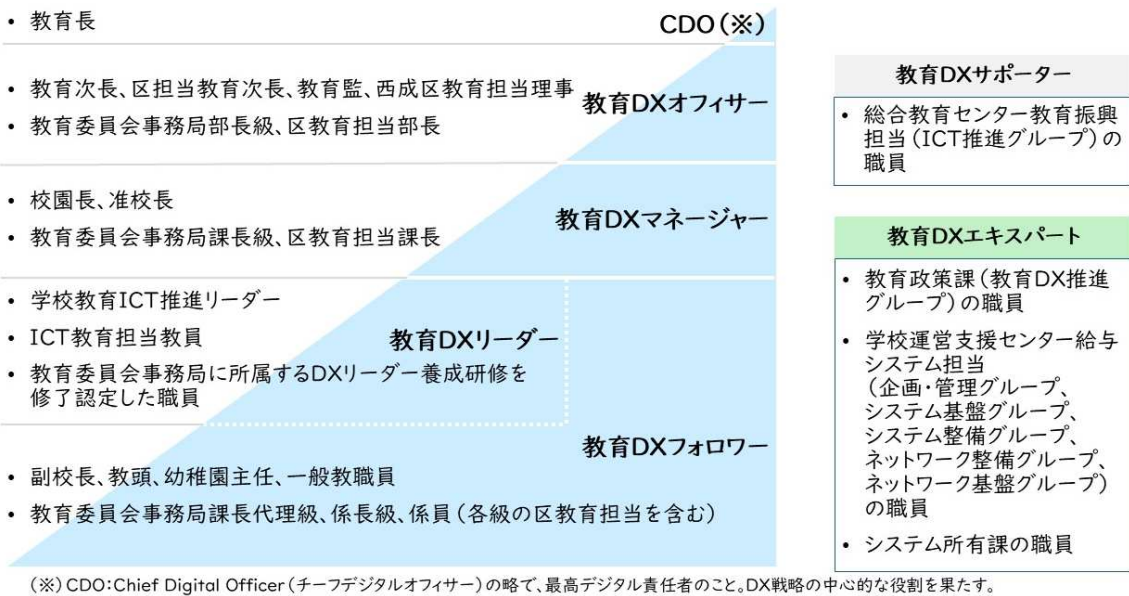
大阪市DX人材育成方針と大阪市教育DX人材育成方針の違いについて

校務や授業に関わるDXの観点から若干異なる部分はあるものの、デジタル技術の導入や取扱いに関する知識が必要であるという点において違いがないことから、目指すべき人材像や階層に応じて必要とされる役割等については、大阪市DX人材育成方針と大きく異なるところはない。

■ 大阪市DX人材育成方針



■ 大阪市教育DX人材育成方針



大阪市教育DX人材育成方針

1 策定の背景・目的・趣旨

■策定の背景

文部科学省 令和5年3月8日 GIGAスクール構想の下での校務DXについて

GIGAスクール構想開始約4年 第1期 一人一台端末の整備 ⇒ 第2期 端末の更新やネットワーク強化校務のデジタル化について、教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化に向けたDXの方向性を示した。

大阪市（令和4年4月1日 大阪市教育振興基本計画 基本的な方向6）

教育DXの推進として、ICTの活用により、児童生徒の学力向上に資する教育方法はもとより、学校運営や教育行政に至るまで、より良い教育の在り方に向けた一体的変革として、教育におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）に取り組んでいる。

■策定の目的・趣旨

教育DXとは、データ及びデジタル技術の活用を前提に、学校園のあらゆる業務プロセス、組織、制度、文化及び風土を変革する取組であり、これを実現し、支えるのは一人ひとりの学校園の教職員及び教育委員会事務局の職員である。このため、これら全ての者を教育DXに関わる人材として育成する基本的な考え方を示すために、大阪市教育DX人材育成方針として策定するものである。

3 目指すべき教育DX人材像

次の階層ごとに、必要とされる役割、行動姿勢、能力・知識を示す

- **CDO**（チーフデジタルオフィサー） 最高デジタル責任者
- **DXオフィサー** 大阪市の教育振興の総合的な政策決定を行い、DXの方向性を組織に示す
- **DXマネージャー** DX推進責任者であり、DXリーダーやDXフォロワーと共にDXを推進する
- **DXリーダー** DX推進の中核を担う実行リーダー
- **DXフォロワー** DXリーダーと共にDX推進を担う
- **DXサポーター** 学校と教育委員会のハブ役
- **DXエキスパート** 教育環境整備の推進者 深い知識を有し、システム開発等を担う

2 方針の位置づけ

大阪市教育振興基本計画

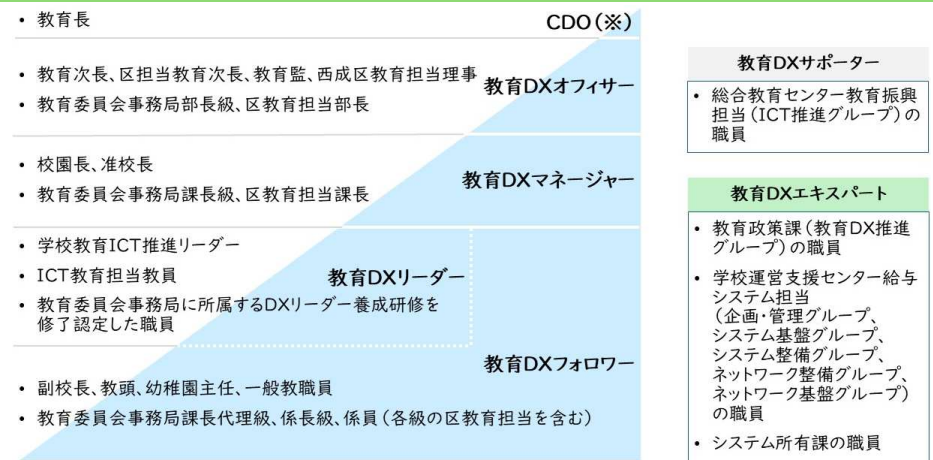
ICTの活用により、児童生徒の学力向上、学校運営や教育行政の一体的変革として、教育DXに取り組んでいる。

大阪市学校教育ICTビジョン

全ての児童生徒の可能性を引き出す個別最適な学びと、協働的な学びを実現するため、これまでの実践とICTを最適に組み合わせることにより、教育の質の向上をめざす。

大阪市教育DX人材育成方針

大阪市教育振興基本計画、大阪市学校教育ICTビジョンの実現に向け、
学校園の教職員及び教育委員会事務局の職員の一人ひとりを教育DXに関わる人材として育成する



（※）CDO: Chief Digital Officer（チーフデジタルオフィサー）の略で、最高デジタル責任者のこと。DX戦略の中心的な役割を果たす。

3 目指すべき教育DX人材像

教育DX人材に必要なとされる能力・知識

情勢判断及び政策決定力	社会情勢の変化、本市方針の状況及び本市の教育課題を把握し、大阪市の教育に有効な教育DXの方向性を決定していく力
マネジメント力	教育委員会事務局及び学校園の全体最適の視点を持ち、教育DXの推進に取り組む組織の意識変革、風土改革に取り組む力
調整力	教育DXの推進にあたり、新しい取組や改善について組織の内外を問わず積極的に協議し、課題の解決方法を決定していく力
発想力、分析力	担当業務の変革について、デジタル技術の活用が効果的かを論理的に見極め、どう変革させるかを考案する力、現状及び改革後の業務を分析し、改革の必要性を考える力、客観的な事実やデータに基づき議論する力
デジタル技術・データの知識	DXで活用されるデータや技術（AI、クラウド、ハードウェア、ソフトウェアの仕様、ネットワーク）、その特徴及び操作に関する知識
デジタル技術・データの活用	関係法令やガイドラインに沿って、教育委員会事務局及び学校園の課題解決に向け、データ・デジタル技術・ツールを戦略的に活用する力
授業・保育でのデジタル技術・データの活用（教員のみ）	DXで活用されるデータや技術（AI、クラウド、ハードウェア、ソフトウェアの仕様、ネットワーク）を授業・保育に活用する力
情報セキュリティ等の知識	デジタル技術活用における情報セキュリティ、コンプライアンス、モラルに関する知識
システム開発デザイン・プロジェクトマネジメント力	関係法令やガイドラインに沿って、教育委員会事務局及び学校園の課題解決に向け、どのようなシステムを構築するかを企画立案する力・システムの企画立案から納品までに必要なプロセスを計画及び実施する力

4 教育DX人材育成の考え方

教育DX推進にあたり、Why（なぜDXが必要かを知り）・What（どんなデータ・技術が必要であるかを知り）・How（どのようにデータ・技術を活用するかを知る）の3ステップで学習を進めていくことで、スキル向上を図る。

Why -なぜDX?-	What -どんなデータ・技術で?-	How -どのように、データ・技術を活用?-
なぜDXを行う必要があるかを理解するため、DXを行うことになった背景に関するコンテンツを学習する。	実際に学校園や企業等でDXを推進する人材が、どのような知識を持って業務を行っているかの理解し、知識を習得するコンテンツを学習する。	業務や授業の改善のために必要となるデザイン能力、テクニカル能力、ストラテジー能力を習得するコンテンツを学習する。
マインド	リテラシー	スキル
➢ 社会情勢の変化、本市方針の状況及び本市の教育課題について理解したうえで、学校園はどのような影響を受けているのか、あるいは将来的に受ける可能性があるのか考えることができる。 ➢ 日々の業務において、デジタルを用いた業務プロセス改革の意識を持つ姿勢	➢ デジタル技術に関する基本的な知識・能力	【デザイン】 ➢ 教職員だけではなく幼児・児童・生徒・保護者の視点も持ち、業務や授業のあり方を根本的に見直すことができる能力 【テクニカル】 ➢ デジタル技術に関する知識を利活用し、デザインしたことを実現することができる能力 【ストラテジー】 ➢ 業務や授業・保育を改善する計画を策定・実践するための各部署との調整、事務手続き、研究等を遂行できる能力

凡例：◎特に必要 ○必要 ▲保持が望ましい

能力・知識	階層	DXオフィサー (局部長級)	DXマネージャー (校園長・課長級)	DXリーダー (ICT推進リーダー、ICT教育担当教員、DXリーダー)	DXフォロワー (教職員、一般職員)	DXサポーター (総合教育センターICT推進G職員)	DXエキスパート (教育政策課等職員)
情勢判断及び政策決定力		◎	◎	○	○	○	○
マネジメント力		◎	◎	○	○	○	○
調整力		▲	◎	◎	○	○	◎
発想力、分析力		▲	○	◎	○	◎	○
デジタル技術・データの知識		▲	▲	◎	◎	◎	○
デジタル技術・データの活用		▲	▲	◎	◎	◎	○
授業・保育でのデジタル技術・データの活用（教員のみ）		—	▲	◎	◎	◎	—
情報セキュリティ等の知識		▲	◎	◎	◎	◎	◎
システム開発デザイン・プロジェクトマネジメント力		▲	▲	▲	▲	▲	◎

今後、階層に応じた次の内容を習得するため、本基本方針で示す方向性や考え方をもとに、計画的・段階的に具体的な研修体系や計画を定める。

CDO・教育DXオフィサー
・社会情勢の変化、本市方針の状況及び本市の教育課題について理解し、組織全体においてDXを推進する先導者としてのマインド・知識を習得する。
教育DXマネージャー
・時代に適応したマネジメント力向上を目指す。
・自分が所属する学校園や課・担当において教育DXを推進するため、教職員だけでなく保護者や幼児・児童・生徒の目線で業務プロセス全般、仕事のやり方、働き方を見直す視点を持ち、学校園や課・担当全体をマネジメントする能力を磨く。
・教育DXの本質を理解した上で、部下職員を育成・支援・けん引する能力を養う。
教育DXリーダー
・教育DXを企画から実装まで中心となって推進するために必要となるマインドや高度なデジタル知識の習得に加え、企画推進のためのスキルの習得を目指す。
・教育DXで課題解決の思考方法・進め方を演習などを通じて実践的に習得する。
・教員は、DXで活用されるデータや技術（AI、クラウド、ハードウェア、ソフトウェアの仕様、ネットワーク）を授業・保育に活用する力の習得し、フォロワーを育成・支援・けん引する能力を養う。
教育DXフォロワー
・教育DXの背景・必要性の理解を深め、自らの業務における教育DXを「自分ごと」として進めていくためのマインドを醸成し、教育DXに関する一般的なデジタル知識（リテラシー）習得を目指す。
・教員は、DXで活用されるデータや技術（AI、クラウド、ハードウェア、ソフトウェアの仕様、ネットワーク）を授業・保育に活用する力の習得を目指す。
※教育DXサポーター及び教育DXエキスパートについては、人材像すべてにまたがるため、上記内容と方法を組み合わせながら育成を実施する。

大阪市教育DX人材育成方針

令和7年 月 大阪市教育委員会

はじめに

大阪市の教育を次なる ステージへ

令和7年 月 教育長 多田 勝哉



学校園の教職員及び教育委員会事務局の職員の皆様方には、日頃から未来を担う人材の育成に御尽力いただいておりますことに対して深く敬意を表しますとともに厚くお礼を申し上げます。

さて、私たちが直面している教育環境は急速に変化しており、教育の質をより一層高めるべく全国で教育DXが推進されています。本市の学校園においても、ネットワークや学習者用端末が整備され、授業や校務の方法が変わりつつあります。

教育DXは、単にデジタル機器を導入するだけでなく、これまでのカリキュラムや学習のあり方、業務プロセスを変革し、教育の質の向上はもちろんのこと、教職員の業務量や働き方までも改革するものです。

この取組を成功させるためには、皆様一人ひとりがデジタル環境を深く理解し、情報を効果的に活用する能力を高めることが不可欠です。また、児童生徒たちもデジタル社会で必要とされるスキルを身につけ、将来に向けた力を育む必要があります。

このたび、大阪市教育DX人材育成方針を策定しました。学校園の教職員及び教育委員会事務局の職員が互いに刺激しあい成長することで、新たな時代に向け積極的にチャレンジできるような環境を整えていきたいと考えています。共に大阪市の教育を次なるステージへと進化させ、明るい未来を築き上げていきましょう。

目次

- 1 策定の背景・目的・趣旨
- 2 方針の位置づけ
- 3 大阪市教育DX人材育成方針の対象
- 4 目指すべき教育DX人材像
 - 4-1 教育DX人材階層図
 - 4-2 目指すべき教育DX人材像（階層別）
- 5 教育DX人材育成の考え方
- 参考 学校園に導入されているシステム

策定の背景・目的・趣旨

1

Ⅰ 策定の背景・目的・趣旨

策定の背景

➤ 国の動き （令和5年3月8日 文部科学省 GIGAスクール構想の下での校務DXについて）

GIGAスクール構想を開始し約4年を経て、学校における一人一台端末の整備から端末の利活用が定着してきたという現状に鑑み、GIGAスクール構想第2期に向け、端末の更新やネットワーク強化などを各地方公共団体に対して促している。また、校務のデジタル化について、教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化に向けた次世代の校務DXの方向性を示した。

➤ 大阪市の動き （令和4年4月1日 大阪市教育振興基本計画 基本的な方向6）

教育DXの推進として、ICTの活用により、児童生徒の学力向上に資する教育方法はもとより、学校運営や教育行政に至るまで、より良い教育の在り方に向けた一体的変革として、教育におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）に取り組んでいる。

策定の目的・趣旨

教育DXとは、データ及びデジタル技術の活用を前提に、学校園のあらゆる業務プロセス、組織、制度、文化及び風土を変革する取組であり、これを実現し、支えるのは一人ひとりの学校園の教職員及び教育委員会事務局の職員である。このため、これら全ての者を教育DXに関わる人材として育成する基本的な考え方を示すために、大阪市教育DX人材育成方針として策定するものである。

方針の位置づけ

2

2 方針の位置づけ

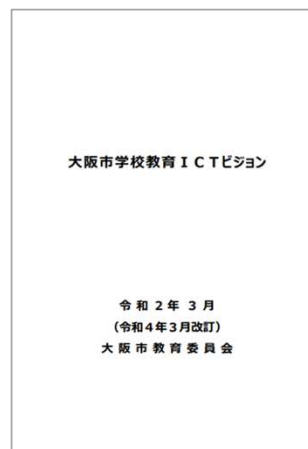
大阪市教育振興基本計画



- 教育DXの推進として、ICTの活用により、児童生徒の学力向上に資する教育方法はもとより、学校運営や教育行政に至るまで、より良い教育の在り方に向けた一体的変革として、教育におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）に取り組んでいる。



大阪市学校教育ICTビジョン



- 本市では、全ての児童生徒の可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びを実現するため、デジタルの有用性を鑑み、これまでの実践とICTを最適に組み合わせることにより、教育の質の向上をめざす。



大阪市教育DX人材育成方針

大阪市教育DX人材育成方針

令和7年7月 大阪市教育局

- 大阪市教育振興基本計画にて、「教育DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進する」とされ、大阪市学校教育ICTビジョンにて、「教員・児童生徒によるICTの積極的・効果的な活用が必要である」とされたことを受け、学校園の教職員及び教育委員会事務局の職員の一人ひとりを教育DXに関わる人材として育成する基本的な考え方を示す。

大阪市教育DX人材育成方針 の対象

3

3 大阪市教育DX人材育成方針の対象について

各部署におけるDX人材育成方針の対象

大阪市教育DX人材育成方針の対象は学校園の教職員ですが、学校園と直接関連がある部署では大阪市DX人材育成方針（デジタル統括室が策定した市全体の方針）と大阪市教育DX人材育成方針の両方が対象となります。

学校園	教育委員会事務局	
大阪市教育DX人材育成方針の対象		
大阪市DX人材育成方針の対象		
・学校園の教職員 ・ 幼稚園 ・ 小学校 ・ 中学校 ・ 義務教育学校 ・ 専修学校	・学校園と直接関連がある部署の職員 ・ 総務部（文化財保護課を除く） ・ 教務部 ・ 指導部 ・ 学校運営支援センター ・ 総合教育センター ・ 中央図書館（利用サービス担当学校図書館支援グループ） ・区担当教育次長・理事・部長、教育委員会事務局を兼務する区役所職員 大阪市DX人材育成方針・大阪市教育DX人材育成方針の両方が対象となります。	・学校園と直接関連がない部署の職員 ・ 総務部 文化財保護課 ・ 生涯学習部 ・ 中央図書館（利用サービス担当学校図書館支援グループを除く） ・ 各図書館 ・ 大阪市史編纂所

目指すべき教育DX人材像

4

4 目指すべき教育DX人材像

教育DX（デジタルトランスフォーメーション）とは

データ及びデジタル技術の活用を前提に、学校園のあらゆる業務プロセス、組織、制度、文化及び風土を変革し、教育の質の向上や教職員の業務量や働き方を改善するもの

デジタル技術を活用し、校務にかかる作業時間を減らしたり、授業や児童・生徒指導の方法を変え、教育の質を向上させます。

また、教職員の余裕を生み出し、働き方改革を進めるとともに、幼児・児童・生徒へ向き合う時間を増やし、教職員・幼児・児童・生徒の双方で好循環を生み出すことを想定しています。

令和7年現在教育DXの進捗はこのあたり

デジタルトランスフォーメーション (デジタル技術で教育を根本から変革すること)

例) クラウドアプリの利用や校務支援システムの拡充により、時間や場所などに囚われない学び・個人の特性に応じた学びの提供、教職員の働き方に合わせた柔軟かつ安全な働き方の提供 など



デジタルライゼーション (デジタル技術を使ってプロセスを効率化すること)

例) 集合研修からe-ラーニングへの移行、採点業務の自動化、端末表示によるノート書写時間の削減 など



デジタイゼーション(アナログ情報をデジタル化すること)

例) ハード面やネットワークの整備、端末による授業や教科書のデジタル化、手続き・事務のデジタル化 など



4 目指すべき教育DX人材像

教育DX人材の対象

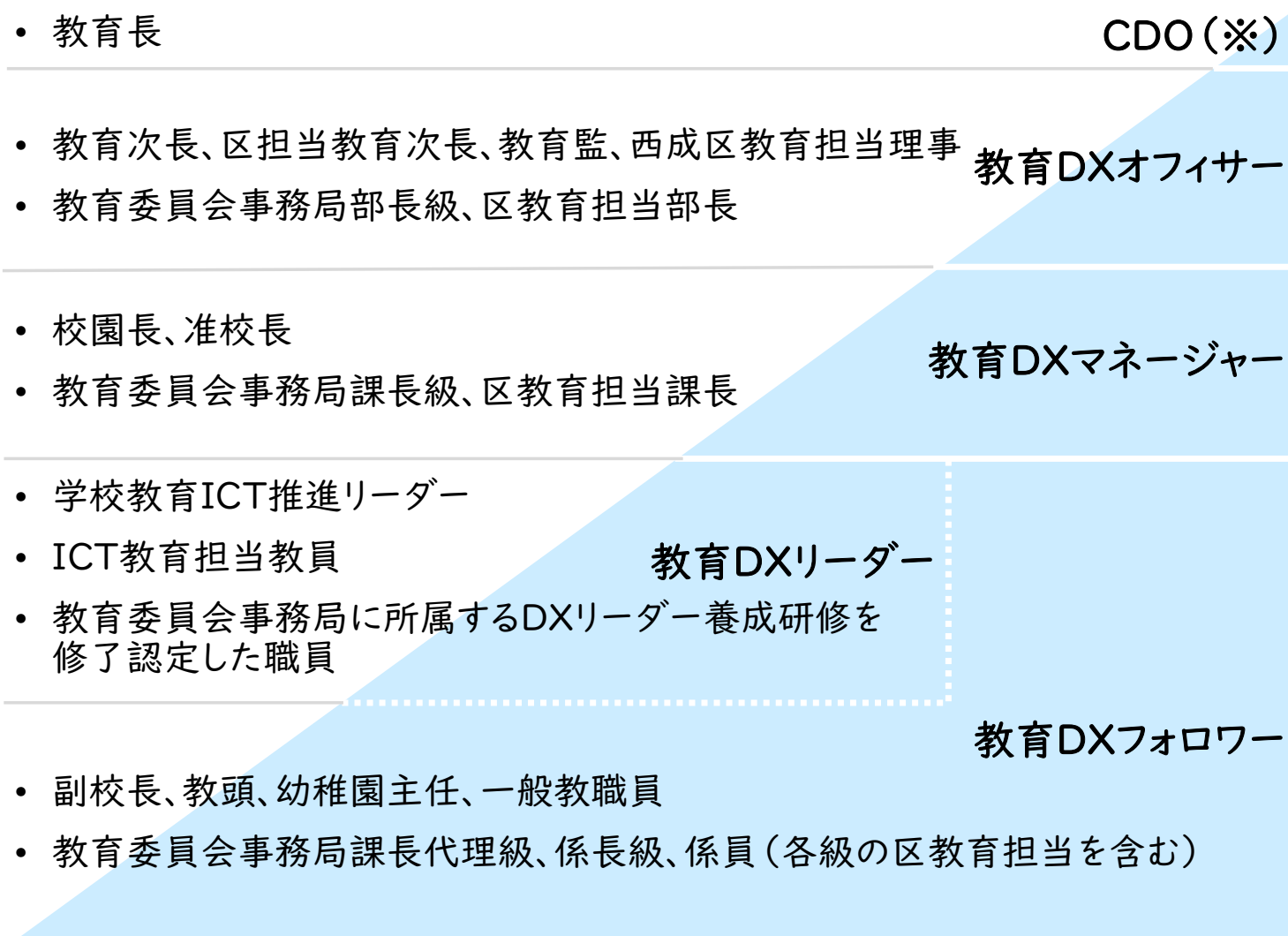
- 学校園の教職員及び教育委員会事務局の職員の一人ひとりがそれぞれの立場で教育DXに関わることが求められる。
- 教育DXの推進において果たす役割・レベルは様々であり、効率的・効果的な人材育成を行うため、階層的に人材像を設定する。
(システム企画設計、デジタル技術の活用、BPR(手法から見直す業務改善)など、推進に直接携わる人材だけではなく、推進後に変革された業務を担う人材も含む。)



目指す人材像

- 日々進歩するデジタル技術やデータを活用して、学校園の業務全般、仕事のやり方、働き方を大胆に見直すことができる人材
- 教職員の目線だけではなく、幼児・児童・生徒や保護者等の視点のニーズも正しく捉え、業務そのもののスタイルをアップデートできる人材

4-1 教育DX人材階層図



教育DXサポーター

- 総合教育センター教育振興担当（ICT推進グループ）の職員

教育DXエキスパート

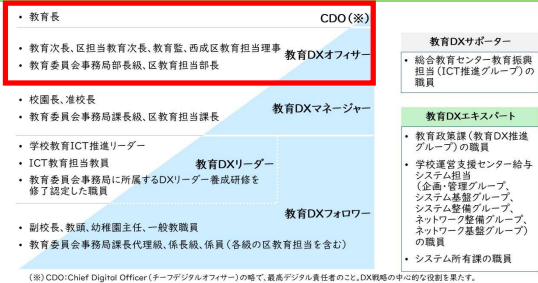
- 教育政策課（教育DX推進グループ）の職員
- 学校運営支援センター給与システム担当（企画・管理グループ、システム基盤グループ、システム整備グループ、ネットワーク整備グループ、ネットワーク基盤グループ）の職員
- システム所有課の職員

（※）CDO: Chief Digital Officer（チーフデジタルオフィサー）の略で、最高デジタル責任者のこと。DX戦略の中心的な役割を果たす。

4-2 目指すべき教育DX人材像（階層別①）

CDO・教育DXオフィサー

大阪市の教育振興において、総合的な情勢判断と政策決定を行う役割であり、有益なデジタル技術・考え方を知り、DXの方向性を組織に示す。広い視野で複雑な事象を概念化し、物事の本質を把握する能力を持つことが求められます。



役割

- 国内外の社会情勢や文部科学省等の動向等（以下「社会情勢」という。）の変化、大阪市DX戦略、大阪市DX人材育成方針、大阪市学校教育ICTビジョン、大阪市教育振興基本計画等（以下「本市方針」という。）の状況及び本市の教育課題を踏まえ、教育DXの方向性・方針を組織に示す
- 組織改革・業務改革の道具として常にデータ・デジタル技術を戦略的に活用する可能性を検討するとともに、改革の取組みを中長期にわたりけん引していく

行動姿勢 (マインド)

- 社会情勢の変化、本市方針の状況及び本市の教育課題を常に留意する
- 部門最適でなく全体最適の視点で議論に参画する
- DX推進にあたって、本市の教育課題が解決されたあるべき姿を想定し、デジタル技術の活用がその実現に向けた最適な手段であるかを確認する
- DX推進にあたって、必要な経営資源を確保・活用し、組織的能力を強化する

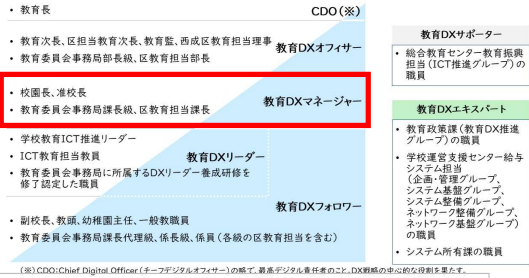
能力・知識

- 情勢判断力及び政策決定力
- マネジメント力

4-2 目指すべき教育DX人材像（階層別②）

教育DXマネージャー

事業推進責任者であり、DX知識を踏まえ課題解決の方法を論理的かつ建設的に整理し、DXリーダーやDXフォロワーと共にデジタル技術の活用や業務効率化を行いながら事業を推進することが求められます。



役割

- DXの必要性を理解し、デジタル資源（デジタル知識が豊富な人材・デジタル技術・データ）の活用により、業務効率化や学びの質向上を実現する教育環境改善のためのマネジメントを行う
- 担当業務の変革において、全体最適に向け、必要に応じて他部門と調整・協力し、組織・プロジェクトをけん引する
- DXリーダー及びDXフォロワーに適切な指示を行う

行動姿勢（マインド）

- 学校園及び教育委員会事務局の全体最適を見据え、校務、授業・保育、事業において、デジタル技術の活用が効果的か論理的に見極めるための情報収集を実践する
- DXを推進できるマインド・スキルを持った人材を育成することの重要性を理解し、育成に必要な取組を行う
- 部下教職員がDXに取り組むための意識変革、組織風土の改革に取り組む
- デジタル資源（デジタル知識が豊富な人材・デジタル技術・データ）活用の機運を醸成し、けん引する
- システム・アプリケーション等の導入判断又は利用の際は、情報セキュリティ、コンプライアンス、モラル面に留意する

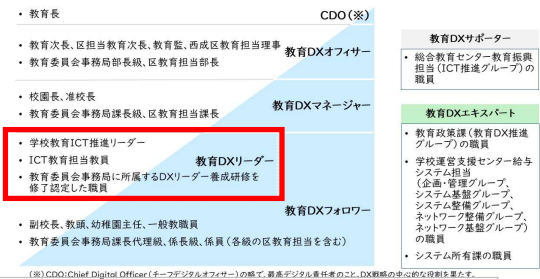
能力・知識

- 情勢判断力及び政策決定力
- マネジメント力
- 調整力
- 情報セキュリティ等の知識

4-2 目指すべき教育DX人材像（階層別③）

教育DXリーダー

DX推進の中核を担う役割であり、DX知識を踏まえ企画立案・調整を進める実行主体として主体的に推進することが求められます。



役割

- 自分が所属する学校園や課・担当にて「データ・デジタル技術の活用」や「誰もが簡単に使えて、満足してもらえる方法を考える発想」により業務効率化や学びの質向上を実現する教育環境改善の企画立案・調整・推進を行う
- DX推進の中核人材として内部職員・外部事業者との協議を主導する
- 担当業務の推進プロセスに沿って、進捗やリスクを管理を行う

行動姿勢 (マインド)

- 深い業務内容の知識をもとに教育DX推進の中心となり、企画立案の調整を行う
- 校務、授業・保育、事業において、デジタル技術の活用が効果的か論理的に見極めるための情報収集を実践する
- デジタル技術やデータ活用の知識を持ち、DXの企画立案・調整にあたり、内外の専門人材・専門事業者と協議を行う
- 課題整理、課題設定、課題解決を主体的に進め、関係教職員を巻き込む
- システム・アプリケーション等の導入又は利用の際は、情報セキュリティ、コンプライアンス、モラル面に留意する

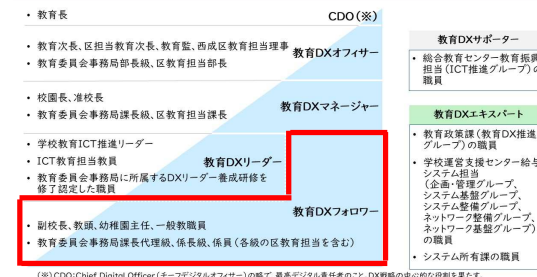
能力・知識

- 調整力
- 発想力、分析力
- デジタル技術・データの知識
- デジタル技術・データの活用力
- 授業・保育でのデジタル技術・データの活用力（教員のみ）
- 情報セキュリティ等の知識

4-2 目指すべき教育DX人材像（階層別④）

教育DXフォロワー

DXリーダーと共に事業推進を担う役割であり、DX知識の習得・前向きな業務遂行が求められます。

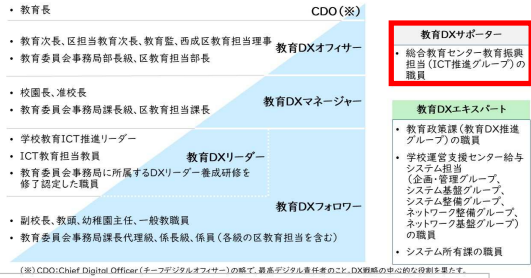


役割	- DXの必要性を理解し、各システム・アプリ・デジタル機器により変革された業務を的確に実施する - 学びの質や業務効率の向上に向け、さらなる教育DXについて主体的に取り組む
行動姿勢（マインド）	- DXの背景や必要性を理解する - DXにより変革された業務や業務フローを理解・習得し、運用する - デジタル技術に関する基本的な知識を有し、導入されたシステム・アプリケーション等を的確に利用する - 導入されたシステム・アプリケーション等の改善点を探り、DXリーダーに相談又は自ら改善に取り組む - 校務や授業・保育の改善に向け、新たに利用できるアプリケーション等を探り、DXリーダーに相談又は自ら改善に取り組む - システム・アプリケーション等の導入又は利用の際は、情報セキュリティ、コンプライアンス、モラル面に留意する
能力・知識	- デジタル技術・データの知識 - デジタル技術・データの活用力 - 授業・保育でのデジタル技術・データの活用力（教員のみ） - 情報セキュリティ等の知識

4ー2 目指すべきDX人材像（階層別⑤）

教育DXサポーター

学校園や教育委員会事務局が検討する学びの質向上におけたソリューション・アプリケーションの導入支援を行う役割であり、市内全体への展開を念頭に学校園同士・学校園と教育委員会のハブ役となることが求められます。



役割

- 学びの質向上におけデジタル技術やアプリケーションの検討を進める学校園や部門からの相談を受けた際に、課題分析・解決策検討・導入障壁の検討補助、事業者の紹介を行う
- 学校園の課題・好事例を収集し、発信する

行動姿勢 (マインド)

- 学習DXの推進補助者として、最新のデジタル技術の動向を把握し、学びの質向上におけた調査や研究を行う
- 学校園の課題収集を進め、推進事業者と議論し、最適なアプリケーションを探索する
- 学校園での好事例収集を進め、他の学校園へ連携する

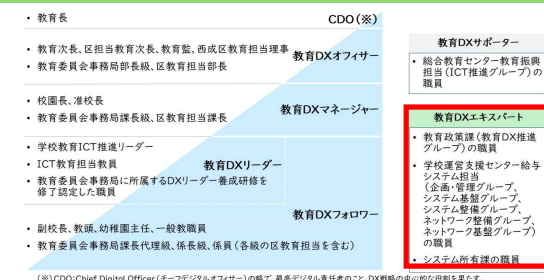
能力・知識

- 発想力、分析力
- デジタル技術・データの知識
- デジタル技術・データの活用力
- 授業・保育でのデジタル技術・データの活用力（教員のみ）
- 情報セキュリティ等の知識

4-2 目指すべき教育DX人材像（階層別⑥）

教育DXエキスパート

教育環境整備の事業推進者であり、事業者との議論に耐える知識やプロジェクト管理能力を有し、大阪市の学びの質向上におけ、費用対効果の高い環境整備を進めることが求められます。校務DXを主とするものの、必要に応じて学習DXの開発を進めます。



役割	- DXの司令塔として、学校園及び教育委員会事務局全体のDX推進を企画・支援する - ネットワークやインフラを理解し、検討内容の影響を分析・説明する - デジタルの幅広い知識やビジネス感覚を持ち、事業者と論理的かつ建設的な議論を進めると共に、費用対効果の高い推進に向けた議論・助言ができる - 費用対効果、実現可能性を考慮しつつ、課題から要件を整理し、見積依頼を進める
行動姿勢 (マインド)	- 教育DXに関する最新技術の動向を把握し、理解している - ガイドラインや規則、運用マニュアルを踏まえ、DX推進の前提条件や既存の業務手法を理解している - 大規模DXプロジェクトの推進者として、事業者との議論に耐えうる知識（製品技術・プロジェクト管理等）を有し、論理的かつ建設的な議論をけん引する - 学校園に敷設されたシステムを把握し、更なる企画、更新、廃止の必要性について考える - 事業者からの返答に対し、認識齟齬や矛盾を確認し、議論することができる - 公共調達理念に則り、事業者が絞られ過ぎない要件整理を進めることができる
能力・知識	- 調整力 - 情報セキュリティ等の知識 - システム開発デザイン力・プロジェクトマネジメント力

4-2 目指すべき教育DX人材像（階層別） 参考資料Ⅰ

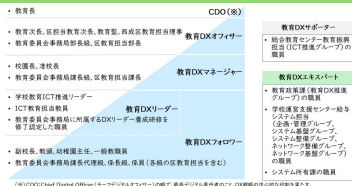
教育DX人材に必要とされる能力・知識

情勢判断及び政策決定力	社会情勢の変化、本市方針の状況及び本市の教育課題を把握し、大阪市の教育に有効な教育DXの方向性を決定していく力
マネジメント力	教育委員会事務局及び学校園の全体最適の視点を持ち、教育DXの推進に取り組む組織の意識変革、風土改革に取り組む力
調整力	教育DXの推進にあたり、新しい取組や改善について組織の内外を問わず積極的に協議し、課題の解決方法を決定していく力
発想力、分析力	担当業務の変革について、デジタル技術の活用が効果的かを論理的に見極め、どう変革させるかを考案する力、現状及び改革後の業務を分析し、改革の必要性を考える力、客観的な事実やデータに基づき議論する力
デジタル技術・データの知識	DXで活用されるデータや技術（AI、クラウド、ハードウェア、ソフトウェアの仕様、ネットワーク）、その特徴及び操作に関する知識
デジタル技術・データの活用 力	関係法令やガイドラインに沿って、教育委員会事務局及び学校園の課題解決に向け、データ・デジタル技術・ツールを戦略的に活用する力
授業・保育でのデジタル技術・ データの活用力（教員のみ）	DXで活用されるデータや技術（AI、クラウド、ハードウェア、ソフトウェアの仕様、ネットワーク）を授業・保育に活用する力
情報セキュリティ等の知識	デジタル技術活用における情報セキュリティ、コンプライアンス、モラルに関する知識
システム開発デザイン力・ プロジェクトマネジメント力	関係法令やガイドラインに沿って、教育委員会事務局及び学校園の課題解決に向け、どのようなシステムを構築するかを企画立案する力・システムの企画立案から納品までに必要なプロセスを計画及び実施する力

4-2 目指すべき教育DX人材像（階層別） 参考資料2

各階層に必要とされる能力・知識

凡例：◎特に必要 ○必要 ▲保持が望ましい



能力・知識 \ 階層	DXオフィサー (局部長級)	DXマネージャー (校園長・課長級)	DXリーダー (ICT推進リーダー、ICT教育担当教員、DXリーダー)	DXフォロワー (教職員、一般職員)	DXサポーター (総合教育センターICT推進G職員)	DXエキスパート (教育政策課等職員)
情勢判断及び政策決定力	◎	◎	○	○	○	○
マネジメント力	◎	◎	○	○	○	○
調整力	▲	◎	◎	○	○	◎
発想力、分析力	▲	○	◎	○	◎	○
デジタル技術・データの知識	▲	▲	◎	◎	◎	○
デジタル技術・データの活用力	▲	▲	◎	◎	◎	○
授業・保育でのデジタル技術・データの活用力(教員のみ)	—	▲	◎	◎	◎	—
情報セキュリティ等の知識	▲	◎	◎	◎	◎	◎
システム開発デザイン力・プロジェクトマネジメント力	▲	▲	▲	▲	▲	◎

教育DX人材育成の考え方

5

5 教育DX人材育成の考え方 1/3

教育DX推進にあたり、Why（なぜDXが必要かを知り）・What（どんなデータ・技術が必要であるかを知り）・How（どのようにデータ・技術を活用するかを知る）の3ステップで学習を進めていくことで、スキル向上を図る。

Why -なぜDX?-	What -どんなデータ・技術で?-	How -どのように、データ・技術を活用?-
なぜDXを行う必要があるかを理解するため、DXを行うことになった背景に関するコンテンツを学習する。	実際に学校園や企業等でDXを推進する人材が、どのような知識を持って業務を行っているのか理解し、知識を習得するコンテンツを学習する。	業務や授業の改善のために必要となるデザイン能力、テクニカル能力、ストラテジー能力を習得するコンテンツを学習する。
マインド	リテラシー	スキル
➤ 社会情勢の変化、本市方針の状況及び本市の教育課題について理解したうえで、学校園はどのような影響を受けているのか、あるいは将来的に受ける可能性があるのか考えることができる。 ➤ 日々の業務において、デジタルを用いた業務プロセス改革の意識を持つ姿勢	➤ デジタル技術に関する基本的な知識・能力	【デザイン】 ➤ 教職員だけではなく幼児・児童・生徒・保護者の視点も持ち、業務や授業のあり方を根本的に見直すことができる能力 【テクニカル】 ➤ デジタル技術に関する知識を利活用し、デザインしたことを実現することができる能力 【ストラテジー】 ➤ 業務や授業・保育を改善する計画を策定・実践するための各部署との調整、事務手続き、研究等を遂行できる能力

5 教育DX人材育成の考え方 2/3

今後、階層に応じた次の内容を習得するため、本基本方針で示す方向性や考え方をもとに、計画的・段階的に具体的な研修体系や計画を定める。

CDO・教育DXオフィサー

- ・社会情勢の変化、本市方針の状況及び本市の教育課題について理解し、組織全体においてDXを推進する先導者としてのマインド・知識を習得する。

教育DXマネージャー

- ・時代に適応したマネジメント力向上を目指す。
- ・自分が所属する学校園や課・担当において教育DXを推進するため、教職員だけでなく保護者や幼児・児童・生徒の目線で業務プロセス全般、仕事のやり方、働き方を見直す視点を持ち、学校園や課・担当全体をマネジメントする能力を磨く。
- ・教育DXの本質を理解した上で、部下職員を育成・支援・けん引する能力を養う。

教育DXリーダー

- ・教育DXを企画から実装まで中心となって推進するために必要となるマインドや高度なデジタル知識の習得に加え、企画推進のためのスキルの習得を目指す。
- ・教育DXで課題解決する思考方法・進め方を演習などを通じて実践的に習得する。
- ・教員は、DXで活用されるデータや技術（AI、クラウド、ハードウェア、ソフトウェアの仕様、ネットワーク）を授業・保育に活用する力の習得し、フォロワーを育成・支援・けん引する能力を養う。

教育DXフォロワー

- ・教育DXの背景・必要性の理解を深め、自らの業務における教育DXを「自分ごと」として進めていくためのマインドを醸成し、教育DXに関する一般的なデジタル知識（リテラシー）習得を目指す。
- ・教員は、DXで活用されるデータや技術（AI、クラウド、ハードウェア、ソフトウェアの仕様、ネットワーク）を授業・保育に活用する力の習得を目指す。

※教育DXサポーター及び教育DXエキスパートについては、人材像すべてにまたがるため、上記内容と方法を組み合わせながら育成を実施する。

5 教育DX人材育成の考え方 3/3

<参考>本方針で示す知識を習得する研修例

J-LIS（地方公共団体情報システム機構）主催の外部研修

		教育DXサポーター / 教育DXエキスパート		
		教育DXリーダー / 教育DXフォロワー	教育DXマネージャー	CDO・教育DXオフィサー
How -どのように、データ・技術を活用？-	専門スキル	新任情報担当者セミナー、システム運用管理セミナー、システム等標準化プロセスセミナー、情報連携の仕組みと利活用方法について など		
	ツール	自治体のDX、はじめの一步を現場から「ノーコード」活用のススメー		
What -どんなデータ・技術で？-	セキュリティ	個人情報取扱担当者のための個人情報保護セミナー	業務のデジタル化における留意点 ～セキュリティやトラストの面から～	情報セキュリティ対策セミナー
	AI	生成AI基礎セミナー、AI・RPA導入セミナー、AI研修（最新の動向など）		
	データ利活用	データ利活用入門セミナー	データ利活用アドバンスセミナー	
Why -なぜDX？-	ICT	ICTの基礎セミナー、自治体職員「情報 I」、デジタルリテラシー（ITパスポート対応）コース など		
	DX	自治体DX入門セミナー	デジタル活用による社会課題解決推進セミナー	政策立案者向けセミナー
	プロジェクトマネジメント	DXによる政策推進セミナー、プロジェクト管理セミナー		

参考 学校園に導入されているシステム

令和7年4月1日現在導入されているシステム例

校務関係のシステム

幼児・児童・生徒の成績、出欠、健康診断結果、指導要録など、学校園・学級の管理運営に係るさまざまな業務

- ① 校園ネットワーク業務システム
- ② 校務支援システム
- ③ 次世代校務支援システム
- ④ 教職員情報システム
- ⑤ 教職員勤務情報システム
- ⑥ 教職員健康管理システム
- ⑦ 特別支援教育就学奨励費システム
- ⑧ 学校給食献立作成システム
- ⑨ 研修受講システム マイ・レコ
- ⑩ 欠席連絡アプリ ミマホルメ など

学習関係のシステム

学校における授業、児童・生徒指導、部活動などの教育活動に係る業務

- ① 学習系システム
- ② デジタルドリル navima
- ③ 採点支援システム
- ④ プレゼン等作成アプリ Canva
- ⑤ タイピング練習アプリ らっこたん など